

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和 6 年 6 月 10 日

千葉県知事 熊谷 俊人 殿

提出者

住 所 千葉県東金市東金769番地2

氏 名 九十九里地域水道企業団企業長職務代理者

九十九里地域水道企業団副企業長 鹿間陸郎

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 0475-54-0631

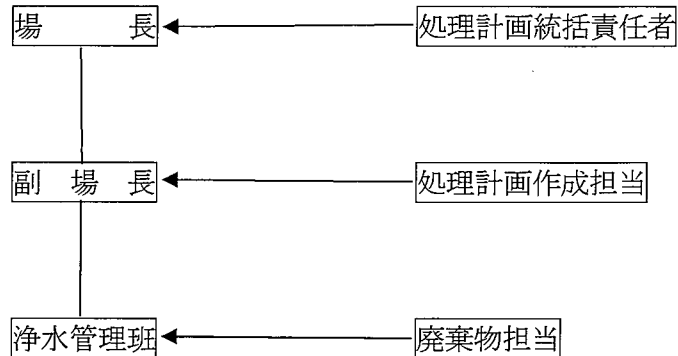
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	九十九里地域水道企業団 光浄水場
事業場の所在地	千葉県山武郡横芝光町傍示戸1026番地
計画期間	令和6年4月1日から令和7年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	大分類：電気・ガス・熱供給・水道業 中分類：水道業 小分類：上水道業
②事業の規模	前年度の浄水量 6,692,044 m ³ /年
③従業員数	18人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙のとおり



産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和5年度）実績】 別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	(これまでに実施した取組) 別紙のとおり		
② 計画	【目標】 別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 別紙のとおり		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 別紙のとおり
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 別紙のとおり

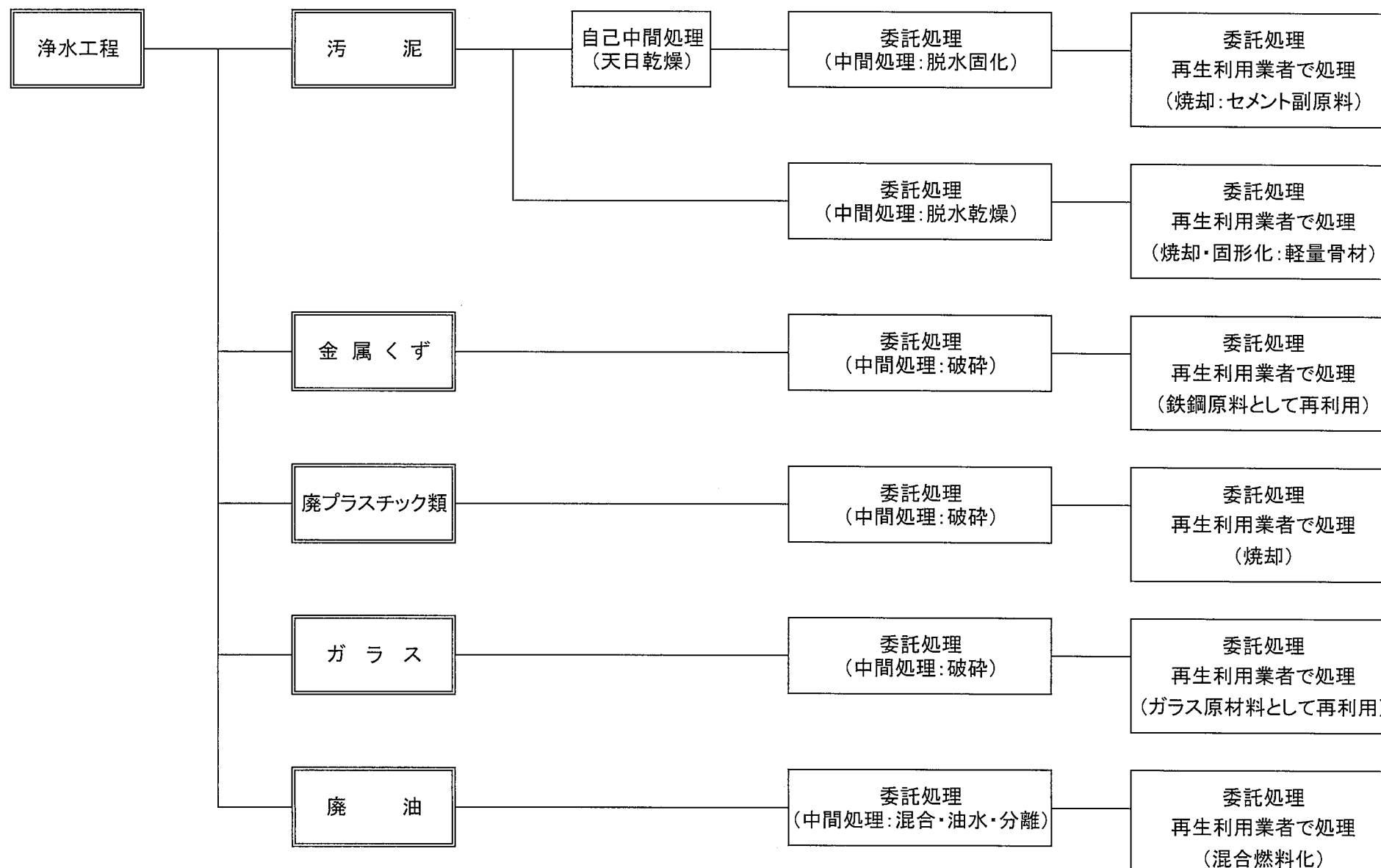
(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（令和5年度）実績】		別紙のとおり
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
	別紙のとおり		
② 計画	【目標】		別紙のとおり
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
	別紙のとおり		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（令和5年度）実績】		別紙のとおり
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】		別紙のとおり
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
別紙のとおり			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（令和5年度）実績】		別紙のとおり
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
	別紙のとおり		
②計画	【目標】		別紙のとおり
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
	別紙のとおり		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（令和5年度）実績】		別紙のとおり
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
	別紙のとおり		

②計画	【目標】 別紙のとおり		
	産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
	別紙のとおり		
※事務処理欄			



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度(令和5年度)実績】					
	産業廃棄物の種類	汚 泥	金属くず	廃プラスチック類	ガラス類	廃 油
	排 出 量	8,380 t	0.5 t	1.8 t	0.6 t	0.6 t
	(これまでに実施した取組) ○天日乾燥床の増設により汚泥の含水率を低下させ汚泥量の減量を図った。 ○凝集剤の適正注入を実施し汚泥の発生量を抑えた。					
②計画	【目標】					
	産業廃棄物の種類	汚 泥	金属くず	廃プラスチック類	ガラス類	廃 油
	排 出 量	8,408 t	0.5 t	1.3 t	0.3 t	0.2 t
	(今後実施する予定の取組) ○天日乾燥床の運転効率向上を図り更なる含水率の低下を目指す。 ○引き続き凝集剤の適正注入を行い汚泥の発生量を減らす。					

産業廃棄物の分別に関する事項	
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ○中間処理委託業者が行うため自己分別は行っていない。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ○今後も業者委託で対応する予定。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度(令和5年度)実績】					
	産業廃棄物の種類	汚 泥	金属くず	廃プラスチック類	ガラス類	廃 油
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) ○汚泥について農作物の土壌改良として客土研究を実施。					
②計画	【目標】					
	産業廃棄物の種類	汚 泥	金属くず	廃プラスチック類	ガラス類	廃 油
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) ○今後も自ら再利用を行う予定はない。					

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度(令和5年度)実績】					
	産業廃棄物の種類	汚 泥	金属くず	廃プラスチック類	ガラス類	廃 油
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	6,483 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) ○汚泥:天日乾燥床による乾燥					
②計画	【目標】					
	産業廃棄物の種類	汚 泥	金属くず	廃プラスチック類	ガラス類	廃 油
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	6,264 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) ○汚泥:引き続き天日乾燥床による乾燥					

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度(令和5年度)実績】					
	産業廃棄物の種類	汚泥	金属くず	廃プラスチック類	ガラス類	廃油
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) ○汚泥:乾燥汚泥を自らが所有する最終処分場に埋立処分を行った。					
②計画	【目標】					
	産業廃棄物の種類	汚泥	金属くず	廃プラスチック類	ガラス類	廃油
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) ○今後、埋立処分又は海洋投入処分する予定はない。					

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度(令和5年度)実績】					
	産業廃棄物の種類	汚泥	金属くず	廃プラスチック類	ガラス類	廃油
	全処理委託量	1,897 t	0.5 t	1.8 t	0.6 t	0.6 t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t	t	t	t
	再生利用業者への処理委託量	1,897 t	0.5 t	1.8 t	0.6 t	0.6 t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) ○汚泥:セメント副原料及び軽量骨材原料として全量を中間処理業者及び再生利用業者に委託している。 ○金属くず・廃プラ:全量を中間処理業者及び再生利用業者に委託している。					

②計画	【目標】					
	産業廃棄物の種類	汚 泥	金属くず	廃プラスチック類	ガラス類	廃 油
	全 処 理 委 託 量	2,144 t	0.5 t	1.3 t	0.3 t	0.2 t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	2,144 t	0.5 t	1.3 t	0.3 t	0.2 t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組) ○汚泥:セメント副原料及び軽量骨材原料として業者に委託する。 ○金属くず・廃プラ・ガラス類・廃油:今後も業者委託で対応する予定。					
※事務処理欄						

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。